

**公立大学法人九州歯科大学
令和7年度 事業に関する説明**

戦略的・意欲的な取組

実施事項	年度の実施状況等
1 地域歯科医療を通じて社会に貢献する歯科医療人育成	・附属病院における診療参加型臨床実習の充実を図るため、指導教員資格を明確化するために新たに定められた歯学科診療参加型臨床実習における指導歯科医の要件に関する内規の運用が開始され、指導教員の体制の強化を図った。また附属病院の電子カルテシステムの更新に併せて、学生専用の電子カルテシステムの運用を開始した。今後は診療参加型臨床実習を通じて、診療録の記載ができるようになるように、また診療の流れを理解するために本学生専用電子カルテシステムを活用していく予定である。 ・医科病院における臨地実習では、医科歯科連携を実地で学ぶため北九州市立八幡病院及び製鉄記念八幡病院での実習を計画通り実施した。また引き続き臨地実習の場をより拡充していくために他の医療機関との連携協定に関して検討中である。 ・臨床実習と臨床研修のシームレス化を図る一環で、現在使用中の電子ケース管理システムの問題点を改善するため、コスト面も考慮した上で、大学独自の開発を行なっていく検討を開始した。
2 地域住民の健康寿命の延伸を視野に入れた多職種連携の強化	・附属病院において、医療的ケア児への対応を含む在宅・訪問診療活動の医療及び教育への対応強化のために、厚生労働省が公募していた歯科医療提供体制構築事業に応募し、実施団体として選定され、当該支援事業の計画に従い、本学・本附属病院、公益社団法人北九州市歯科医師会及び一般社団法人小倉歯科医師会に所属する歯科医師を構成メンバーとした協議会を新たに大学に設置し、具体的な活動を開始した。また既に北九州市が主体の多職種が連携して運営している「北九州地域医療的ケア児支援協議会」に本学教員がメンバーとして新たに参画し、附属病院における事業活動との連携の強化を図った。今後は北九州市内の医療的ケア児の実態を把握するため「北九州地域医療的ケア児支援協議会」と連携してアンケート調査を行い、本学に求められているニーズを把握した上で具体的な活動計画を立案していくこととしている。 ・社会的な歯科医療人材の不足に対応するため、社会貢献の一環として歯科衛生士の資格を有するが、育児等で休職をされていた方を対象とした本学附属病院独自のOJTを主体としたプログラムである歯科衛生士復職支援事業を開始した。今後も継続的に復職支援事業を実施していく予定であるが、本事業をより多くの方に周知した上で、参加者の増加を図っていく予定である。 ・地域包括ケアシステムにおける多職種連携の強化に繋がる在宅・訪問診療活動の強化のため、附属病院に車両1台とポータブルユニット等一式を追加配備して、在宅・訪問診療に必要な機材等の整備を行った。今後は本学附属病院の口腔リハビリテーション科を中心に在宅・訪問診療において、摂食嚥下に関わる検査、リハビリを中心とした地域の中核医療機関としての専門的な役割を担いながらも、地域包括ケアシステムにおけるオーラルヘルスチームの一員としての役割を、実地で学ぶ教育の場の拡大を図っていく。
3 全身の健康増進及びグローバルマインドの意識をもって次世代を担う歯科医療人の育成	・歯学科及び口腔保健学科の実習生は附属病院における診療参加型臨床実習を通じて、全身疾患を有する有病高齢者について実践的に学べる環境を維持している。両学科の実習生ともに担当患者が配当され、歯学科は治療計画、また口腔保健学科は歯科衛生士課程の作成を通じて、患者の全身疾患に対する問題を主体的に学ぶ教育プログラムを実施継続している。 ・ワンヘルス教育に関しては、県内大学が連携して前年度から準備されていた共通科目である「ワンヘルス入門コース」が開講し、本学は選択科目ではあったが、両学科の1年次生の多くが受講した。 ・国際学生交流プログラムは、タイのシーナカリンウィロート大学とランシット大学、また台湾の台北医科大学、高雄医科大学、及び中山医学大学との間で、歯学部学生の相互訪問による交流プログラムが実施された。また令和7年度に初めて中山医学大学で、歯学部学生の交流とは別に、本学と中山医学大学の教員及び大学院学生との間で研究活動の交流を目的とした研究情報交換会が実施された。 ・国際ボランティア活動である口腔外科教員を中心に他大学と連携して行われているベトナムにおける唇顎口蓋裂児の医療支援に歯学科学生が参加し、大学として国際交流プログラムの一環として、渡航費用の一部の支援を行なった。

I 教育に関する目標を達成するための措置

項目別の状況（中期計画項目）
1 地域社会の歯科保健医療活動に貢献できる実践的歯科医療人の育成 新たな時代で直面する社会的課題解決に寄与し、歯科口腔保健・医療活動を通して地域社会の発展に貢献できる実践的歯科医療人育成のため、アクティブラーニング及び診療参加型臨床実習を重視した教育を推進する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 知識・技能・情意教育の充実と検証【1】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 3つのポリシーに資するアセスメントポリシー（学修成果の評価の方針）を構築し、アウトカム基盤型教育における達成度評価を実施し、教育内容について検証する。	アセスメントポリシーの構築	令和6年度アセスメントポリシーの構築 令和7年度からアセスメントポリシーに従い到達度評価実施、以降毎年度検証、見直し実施	アセスメントポリシーの原案を作成した。FDにおいて、アセスメントポリシーについての説明を行った。 実施に伴い、FDにおいて、アセスメントポリシーについての説明を再度行った。構築したアセスメントポリシーに沿って、各レベルにおいて評価が行われた。
	（歯学科）共用試験（CBT、OSCE）合格率	毎年度95%以上	令和7年度は受験生100名中96名が合格し、合格率96%と目標を達成した。
	（歯学科）診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（Post-CC PX）合格率	毎年度100%	合格率100%で目標を達成した。
	（歯学科）歯科医師国家試験最低修業年限（6年間）合格者率	毎年度70%以上	未達成：64.2%（令和7年度卒業生）
	（口腔保健学科）歯科衛生士国家試験合格率	毎年度100%	達成：100%（令和7年度卒業生）
イ 令和6年度入学生から、令和4年度改訂版「モデル・コア・カリキュラム」改訂に伴う歯学科教育プログラムへの対応 対応した教育プログラムを導入し、その学修成果を検証し、教育プログラムを改善する。（歯学科）	「モデル・コア・カリキュラム」改訂に伴う歯学科教育プログラムへの対応	令和6年度の歯学科1年次生より「モデル・コア・カリキュラム」改訂に基づく歯学科教育プログラムを構築・開始 期間の末の令和11年度に最終学年における学修成果を検証し、歯学科教育プログラム全般を改善する	対応確認済 令和11年度実施予定
	学生の成績 平均GPA	毎年度2.5以上（満点4）	達成：2.52（令和7年度全学生平均）

ウ	高い国家試験合格率を維持するため、IR室を教職協働の組織に再編し、入学者選抜から在学中の成績全般の管理分析を迅速に行える体制を強化する。	成績データ等解析のためのIR組織の再編	令和6年度再編実施	「九州歯科大学教育IRセンター設置要領」を制定した。これまでの関連メンバーを中心に組織としての活動基盤を整備中。
			令和7年度より再編組織による活動開始、毎年度活動内容を検証、見直し実施	種々の観点からの検証が進んでいる。 ・入試区分別の入学後学生の動向 ・初年次のGPAとCBT、国試合格率 ・CBT、国試の合格確率を元に学生指導など。
エ	アクティブラーニングを促進するため、LMS (Learning managementsystem) を活用した双方向型教育プログラムを充実させ、教育効果を検証する。	LMSを活用した教育プログラムの検証	毎年度効果を検証	令和7年度末の学生アンケートにおいて、約70%の学生が「電子媒体の方が学習しやすい」と回答しており、オンライン小テストの効果についても多くのコメントがあり授業のLMS活用の充実が進んでいることが伺える。
オ	デジタル学修コンテンツを活用したアクティブラーニングのための臨床教育プログラムを構築する。	デジタル学修コンテンツを活用した臨床教育プログラムの構築	令和6年度プログラムの作成	既存のコンテンツの収集中。
			令和7年度より運用開始し、順次拡大 令和10年度臨床実習を含む、全ての臨床系実習科目において運用開始	すでに部分運用されており、引き続き状況確認中。
カ	教育におけるDXを推進・支援するため、ICT活用部会を基盤とした教職協働の組織を構築する。	教育におけるDXを推進支援するための組織の構築	令和6年度新組織の検討	既存のコンテンツの状況確認中(R6回答)
			令和7年度より運用開始し、順次拡大 令和8年度より新組織体による活動開始、毎年度活動実績を検証、見直し実施	既存コンテンツの状況確認完了。 令和8年度より ICT 活用部会を発展改組してDXを推進支援する組織とする。
			構築年度以降、毎年度80%以上	令和7年度は教育DXに関する学生満足度調査は未実施

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2) 大学院教育における厳正な評価の実施と検証【2】	昨年度に引き続き、本学で実施している厳正な評価システムに則り、大学院教育の評価と検証を行った。また、先の認証評価の指摘に従い、引き続き大学院の科目改定を行った。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 3つのポリシーの観点から、適正な大学院教育を展開し、教育成果を検証する。	大学院定員充足率	毎年度70%以上	収容定員106名に対し、今年度の在籍大学院生の数は84名であり、充足率は79%と目標は達成できた。
イ 学位授与の基準を検証し、適正な学位（修士・博士）の授与体制を確立する。	最低修業年限（修士課程2年、博士課程4年）学位取得者率	毎年度70%以上	今年度の最低修業年限での学位取得者数は25名中18名であり、72%と目標を達成できた。

項目別の状況（中期計画項目）
2 教育の質的改善を図るための教員の教育能力向上 教育の質的改善を図るため、従来のファカルティ・ディベロップメント（FD）のあり方を見直し、個々の教員の教育能力の開発や質の向上に結びつくFDプログラムを構築する。また、教員の教育能力の評価について、学生の学修成果（アウトカム）の到達度を基盤とした評価システムに改編し、検証する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) FDによる教育能力の向上と有効性の検証【3】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
教育能力の向上に結びつく教育方法の普及のため、FDプログラムを再編し、その効果を検証する。	FDプログラムの再編	令和6年度再編検討 令和7年度再編プログラムでのFD実施、毎年度効果の検証、見直し実施	今年度は部会・センターからの活動報告・課題等の研修を13回行った。
	FDの参加率	毎年度95%以上	未達成 90%（平均）
	アンケートで成果があったと回答した者の割合	毎年度80%以上	達成 98.8%（業務の改善につながった・つながる見込みがある）

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2) 教育能力向上に資する教育業績評価の改編【4】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
教育業績評価について、学生の成績等の学修成果（アウトカム）の到達度を基盤とした評価システムに改編し、その効果を検証する。	教育能力評価の方法の改編	令和6年度にアセスメントポリシーに従った到達度評価の構築、改編作業実施	アセスメントポリシーに沿って学生の学修達成度を測る指標項目を設定した。FDにおいて説明を行い、教員へ各講義の効果についてPDCAの実施を依頼した。
		令和7年度評価より運用開始、毎年度効果の検証、見直し実施	令和7年度からの実施に向けて、学生の学修効果を測る指標項目の設定した。
	学生による授業評価の平均	毎年度評価4以上（満点5）	達成：令和7年度 平均4.34
	同僚による授業評価を受けた教員の割合	毎年度授業担当者90%以上	未達成：令和7年度 54.2%

項目別の状況（中期計画項目）
3 国際的な保健医療活動に寄与する人材の育成 国際的な視点で、保健医療活動に寄与する人材を育成するため、国外の大学等との連携による多様な交流活動等を通じて国際化に対応した教育を推進する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 国際教育交流プログラムの充実【5】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 学生海外短期派遣プログラムを拡充する。	学生海外短期派遣プログラム派遣学生数	毎年度10名以上	達成：令和7年度は合計11名 歯学科4年：3名 歯学科3年：5名 口腔保健学科3年：3名
イ 海外連携大学からの学生受入プログラムを拡充する。	海外学生受入プログラム参加大学数	毎年度2校以上	達成：令和7年度は、4大学受入。 ・高雄医学大学（1名） ・台北医学大学（3名） ・シーナカリンウィロート大学（2名） ・ランシット大学（4名）
ウ 受入留学生を拡充する。	大学全体の受入留学生数	期間中6名	達成：令和7年度在籍者8名（学部2名、大学院6名）

項目別の状況（中期計画項目）
4 大学が求める資質・能力を持った学修意欲が高い学生の確保 「学力の三要素」を適正に評価し、歯科保健医療活動を通じて、社会に貢献する素養を有する多様な人材を確保する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) アドミッションポリシーに基づいた入学者選抜の実施と検証【6】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア アドミッションポリシーに適合した、優秀かつ多様な人材を確保していくなかで、学力の3要素の視点に立ち、多様な入学者選抜によって適正な人材が入学しているかを検証する。	入学者選抜方法の検証	令和6年度における検証の結果によっては、令和9年度からの見直しを実施する	令和7年度は以下について種々のデータ分析結果をもとに検討した。 ①総合型選抜の集団面接の現状と代替方法 ②共通テストへの「情報」科目の組入 ③総合型・学校推薦型選抜の基準点への段階表示の導入 ④口腔保健学科の一般選抜における個別試験の内容など
イ 入学者選抜のデータと入学後の成績について、IR室を中心に組織的に分析を行い、入学者選抜方法を改善する。	入学者選抜における入学者の成績の検証	毎年度実施・検証	令和6年度までの入試成績と入学後の成績について IR室を中心に分析を行った。
ウ オープンキャンパス、高校への広報活動、大学入試説明会等の広報活動におけるDXの活用を推進し、志願倍率を安定維持させる。	歯学部志願倍率	毎年度2倍以上	未達成：令和8年度入試の実施方法別の志願倍率は口腔保健学科の総合型選抜を除き2倍以上だった。 ・総合型（歯）6.0倍、（口保）1.67倍 ・学校推薦型（歯）4.0倍、（口保）2.67倍 ・一般（歯）5.3倍、（口保）2.9倍

項目別の状況（中期計画項目）	
5 学生が健やかで充実した学生生活を送るための学生支援体制の充実・強化 教職員が一体となって、学生の視点に立ち、より質の高い学生支援体制を構築する。	

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 学修及び経済的支援体制の充実【7】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 学生の修学に係る問題に対応するため、学年主任・副主任・助言教員による支援体制の他、学生支援対策会議及び障がい学生支援会議を中心に教職協働の組織での取組を充実させる。	修学支援体制の充実	毎年度検証・見直し	・保護者面談において、複数人による対応と経験の機会提供のため、副主任も同席して実施した。 ・学年主任会議、学生支援対策委員会を毎月開催し学生の心身の健康維持のため教職協働の取組を充実させた。
イ 学生相談業務を充実させるため、学生相談システムのDXを推進し、学生のニーズに沿った教職協働の支援体制を充実させる。	学生相談システムのDXの推進	毎年度実施・検証	・学生相談システムはMoodleをベースの学生用事務局ポータル内で随時改善を進めている。欠席時の健康状況報告システムが機能している。
ウ 高等教育の修学支援新制度に基づく授業料減免、分納制度の活用に対する支援を強化する。	授業料減免、分納制度の活用の支援強化	毎年度実施・検証	令和7年度授業料減免 合計272件 修学支援新制度（学部生）272件 独自制度（大学院生）0件 令和7年度授業料分納 合計4件

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2) キャリア支援体制の充実【8】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 就職支援のDXの促進により学生の利便性を向上させるとともに、教職協働の就職支援体制を強化し、歯学科及び口腔保健学科のキャリア支援を充実させる。	（歯学科） 歯科医師臨床研修マッチング率	毎年度100%	未達成：新卒82名中1名アンマッチ
	（口腔保健学科） 就職率	毎年度100%	達成：100%
イ 口腔保健学科では、歯科衛生士としての職域に留まらない、幅広い分野で活躍できるキャリアパスを提案し、就職先の開拓をはじめとした就職支援を行う。	（口腔保健学科） 就職率 （再掲）	毎年度100%	達成：100%

ウ 卒業生を対象としたアンケート調査の実施により、キャリア・就職支援体制を検証する。	卒業生に対するアンケート調査結果の検証	令和6年度から調査方法の検討開始	令和7年度はこれまで同様に実施。
		令和7年度から調査実施し、毎年度検証	同上

Ⅱ 研究に関する目標を達成するための措置

項目別の状況（中期計画項目）	
1 歯科医学研究の推進	地域の課題、ニーズに対応した研究、歯科保健医療の将来を見据えた先進的な研究に重点的に取り組み、その成果を広く社会に発信し還元する。

実施事項	年度の特により優れた実績や成果
(1) 歯科医療及び歯科医学を支える研究の強化 【9】	研究環境を改善するために、研究センターを設立した。さらに、適正適切な動物実験を実施するために、本学動物実験の外部検証を受審した。来年度は、URAの本格運用を開始する。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
大学の理念及び教育研究目標と合致した研究に加え、歯科医療の発展に寄与する研究を推進する。	地域密着型の研究プロジェクト数	毎年度1プロジェクト以上	2プロジェクト、複数件実施することができ目標は達成された。
	論文数（英文誌）	毎年度80編以上	達成：82編以上（researchmap参照）

項目別の状況（中期計画項目）
2 研究活動を活性化させるための研究資金の獲得拡大 研究活動を更に活性化させるため、教員の研究意欲及び研究水準の向上等につながる支援体制の充実・強化を推進するとともに、国内外の大学、企業、研究機関との連携強化や外部研究資金の獲得拡大に取り組む。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 外部研究資金の獲得【10】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
分野を超えた研究体制のもとで外部研究資金を獲得する。	外部研究資金応募、獲得件数	政府省庁等が公募する大型プロジェクトの獲得1件（期間中）	2件（2026年3月末現在） 今年度、厚生労働省が公募していた歯科医療提供体制構築支援事業及び災害歯科保健医療提供体制構築事業に福岡県を通じて応募し、両事業ともに選定された。
		科学研究費応募件数60件、獲得件数60件（年間）	応募件数78件、採択件数77件（継続課題も含む）。いずれも目標を達成できた。
		受託研究・共同研究、奨学寄付金・研究助成金受入140件以上（期間中）	今年度の実績は、53件と昨年度の実績を大幅に上回った。

項目別の状況（中期計画項目）
3 国際化に対応した研究の推進 国際的研究活動を活性化させるため、研究分野における国外の大学等との連携を推進する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 国際共同研究体制の充実【11】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
教員及び大学院生等の海外出張及び海外留学、又は留学生の受け入れ等を通じた国際共同研究活動を推進する。	国際共同研究活動の実績	毎年度5件以上	達成：9件 R7年度は大学院で PARKS等を活用した本学教員団の中山医学大学訪問など教員間の研究連携強化が行われた。

Ⅲ 地域貢献に関する目標を達成するための措置

項目別の状況（中期計画項目）

1 県民の健康保持増進につながる取組の推進
地域のシンクタンクとして地域住民に対する情報発信、また歯科医療従事者等の医療関係者に対する歯科口腔保健・医療に関する学びの支援を通して、地域住民の健康保持増進に寄与する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 自治体、地域の医療、福祉、教育等の機関及び関係団体、企業等との連携強化による社会貢献活動の推進【12】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 自治体等との連携により、公開講座等で、地域住民のニーズに応じた歯科口腔保健等に関する情報提供を実施し、県民の健康保持増進につながる生涯学習等の取組を支援する。	公開講座等の実施回数	毎年度1回以上	・ 歯大祭公開講座（10月25日） 「口腔がん、最新の診断と治療」 ・ 第20回いいな、いい歯。フェア（11月9日） 「歯科衛生士体験コーナー」を出展 ・ ずーっと はっぴー教室（1月12日） ワンヘルス事業（到津の森公園で実施） ・ 高校への講師派遣（10月24日） 伝習館高校
イ 地域のシンクタンクとして、自治体が実施する地域保健活動を支援し、連携を強化する。	支援活動事業数	毎年度1事業以上	北九州市口腔保健推進会議のメンバーとして、歯科口腔保健事業、オーラルヘルス推進事業や生涯を通じた歯科口腔保健の推進について北九州市と連携して地域保健活動を支援した。
ウ 地域の中学校・高等学校の生徒を対象とした歯科口腔保健・医療に関する模擬講義を通して高大連携活動を推進するとともに、次世代を担う青少年の口腔保健に対する学びを支援する。	模擬講義等の実施回数	毎年度5回以上	未達成：令和7年度の実施回数 3回 ただし、上記と別に令和2年度より高校別キャンパス訪問として近隣の高校生を受け入れる事業を開始し、その一部で模擬講義・体験実習を行なっている。（令和7年度の高校別キャンパス訪問受け入れ 5回）
エ 歯科医療関係団体等と連携して、地域歯科医療を担う人材育成のためのリカレント教育を支援する。	リカレント教育支援プログラム数	毎年度1プログラム以上	・ リカレント教育として歯科衛生士復職支援事業を実施し、1名が参加した。 ・ 歯科衛生士会と、復職希望者リスト等の情報共有を協議中

IV 業務運営及び財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

項目別の状況（中期計画項目）	
1 戦略的な大学運営の推進、検証及び改善 理事長のリーダーシップのもと、安定した経営状況を保ち、大学の特色を生かした戦略的・機動的な大学運営を推進して社会に貢献する実践的な歯科医療人を育成する。大学運営について、教育研究組織、運営等の検証・改善を内部質保証のもとで行い、専門性を有する多様な人材の確保・育成を行うとともに、他大学と連携した多様な教育研究を効果的に推進する。 さらに、ガバナンスを強化し社会的信頼性を担保するために、内部統制システムの不断の改善と教職員のコンプライアンスの徹底を推進する。	

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 理事長のリーダーシップによる明確なガバナンス体制のもとでの戦略的な大学運営の推進【13】	・今年度から持続可能な大学運営を戦略的に進めていくため、将来の大学運営を担っているであろう中堅若手教員を中心に議論を行い、12年後の大学のあり方を目途に昨年度策定した「九州歯科大学長期ビジョン2035」に基づく大学運営を開始した。また附属病院の経営の改善と安定を図るため、実現可能な具体的な数値目標と方略を盛り込んだ「九州歯科大学附属病院経営改善プラン」の運用を開始し、経営における収入の改善に結びつけることができた。 ・大学運営における内部質保証の新たな体制を構築し、第4期中期計画、分野別認証評価及び機関別認証評価に基づく自己点検評価の他、新たに策定した「九州歯科大学長期ビジョン2035」の進捗状況についても併せて自己点検評価を実施し、その結果を内部質保障委員会で検証を行った。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 限られた教育資源の克服に向けた他大学との多様な教育連携を推進する。	他大学との連携を推進する組織を構築し、連携活動を展開	期中の2年間で構築し、その後、連携活動を展開	昨年度と同様、北九州市内の北九州市立大学、九州工業大学、産業医科大学における教育連携について意見交換を行った。また本学と同様の福岡県が設置する公立大学法人の福岡県立大学及び福岡女子大学との間にも連携に関する意見交換を知事を交えて行なった。大学院教育に関わる部分で北九州市立大学と新たに研究分野に関する歯工学連携の分野をAIを活用しマッチングを行う取組みを始動させた。
イ 内部質保証委員会による学内体制の自己点検・評価に対する審査を実施し、本計画に掲げる教学システム及び大学運営に関する達成目標に係る到達度等を検証する。	法人理事会と大学部局との戦略的・機動的な運営会議の開催 内部質保証委員会の開催	毎月開催 毎年度内部質保証委員会において評価表等による分析を行い、適正な改善を実施する	大学教職連携会議（USC会議）毎月第2週水曜日に開催し、大学運営に関わる諸問題に関する情報共有及びそれらの対応について検討を行った。 内部質保証委員会は年度末の3月に開催し、第4期中期計画の進捗状況及び機関別認証評価ならびに分野別認証評価に基づく自己点検評価を実施し、その結果について検証を行った。加えて今年度から始動した「九州歯科大学長期ビジョン2035」の進捗状況についても同様に自己点検評価を同委員会において実施した。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2) 内部統制システムの不断の改善とコンプライアンスの強化充実及び周知徹底【14】	・昨年度に引き続き、公立大学協会が策定したガバナンスコード（2024年5月29日改訂版）に基づく自己点検評価を実施し、内部統制推進委員会においてその結果を検証し、それを公表した上で、改善を図った。 ・ハラスメントに関する案件に関しては、軽微な事案で人権委員会に届出がされない案件に関しても、相談等があり把握できた場合は内部統制委員会において情報を共有して、早期に事案に対応するよう改善を図った。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 公立大学法人九州歯科大学内部統制規則のもと、内部統制推進委員会が行っている大学運営検証作業の実施体制を強化する。	内部統制推進委員会による大学運営の検証体制の強化	毎年度検証	内部統制推進委員会は年度末の3月に開催した。昨年度に引き続き公立大学協会が策定したガバナンスコードに基づき検証評価を行い、大学運営における検証体制の強化を実施した。尚、ガバナンスコードによる評価結果は、本学ホームページ上で公表を行った。
イ コンプライアンスの強化充実と周知徹底のためのSDを実施する。	コンプライアンスの強化充実と周知徹底のためのSDの実施	毎年度5回以上	6回

項目別の状況（中期計画項目）

2 業務運営の効率化と財政基盤の強化

業務のDXの推進とSDの実施による教職員の業務遂行能力向上により、業務運営を効率化する。また外部資金の獲得により自己収入を増加させ、財政基盤の強化に取り組む。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 業務のDXの推進と業務遂行能力向上のためのSDの実施【15】	今年度、庶務に関わる業務のDXの推進を図るため、新たな庶務システムを導入した。本システムの導入により将来的に庶務業務に係る経費削減ならびに業務効率の改善、併せて導入された勤怠管理システムにより教職員の出退勤時間を把握できるようになったため、今後の働き方改革を進めていく上で有用な教職員の勤務時間の実態を把握することができるようになった。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 業務のDXの推進とともに、情報セキュリティ対策を充実させる。	DXの推進と情報セキュリティ対策の実施	令和6年度から2年間でDX推進業務改善計画の立案 令和8年度から令和11年度末までに計画を段階的に実施	附属病院で学生カルテの企画・作成を行った、またデジタル技工に関して委員会を立ち上げ計画策定を行った。作って教材のコンテンツ移行を九州工業大学と共同研究として実施した。 AIインフラ整備の計画化と、研究プロセスのデジタルアーカイブのための段階的実施。
イ 業務遂行能力の向上のためのSDを実施する。	業務遂行能力向上のためのSDの実施	毎年度5回以上	6回

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2) 科研費等の外部資金獲得による財政基盤の強化【16】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
科研費等の外部資金の獲得による自己収入を増加させる。	外部資金獲得額	科学研究費交付額100,000千円（年間） 受託研究・共同研究費・奨学寄附金・研究助成金受入額160,000千円（期間中）	達成：130,202千円 ※令和7年度の新規採択課題及び継続課題の金額（間接費含む） 順調：36,537千円 ※受託研究：複数年度に分かれて入金は、入金年度毎に計上。 ※共同研究：新規契約+変更契約（増額の場合のみ）計上。 ※研究助成：研究期間開始日で計上（R7.3交付内定、R7.4.1研究期間開始日のものはR7に計上）。

項目別の状況（中期計画項目）
3 地域の歯科医療の拠点としての病院機能の充実・強化 歯科口腔保健・医療の現場でも、高齢社会を迎え、地域の医療従事者等との緊密な連携のもと、学童期から成人期、高齢者に至るまでのライフステージに応じた包括的歯科保健医療体制の構築など、地域ニーズへの適切な対応を行うことが求められている。この視点に立った経営を推進し、地域住民の満足度調査を行う。加えて、適正な収入を確保することにより、安定的な病院経営を行う。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 病院・歯科診療所との連携の強化【17】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 歯学部附属病院の機能を補完する地域中核病院との連携体制を強化する。	中核病院との連携体制の強化	これまでの地域連携による成果を検証し、第4期中期計画6年間における強化プランを作成し、期間の末までに実行	地方独立行政法人下関市立市民病院と連携協定を交わし、周術期における口腔機能管理や歯科麻酔等の実践・教育・研究面において相互が緊密に連携する体制を構築した。
イ 近隣の医療機関・歯科診療所との連携強化のための地域医療連携室の活動を強化する。	連携室経由の新患紹介患者数と紹介率	毎年度5,000名、紹介率50%	2025年度 連携室経由の新患紹介患者数：6,073名 紹介率：79.9%

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2) 在宅高齢者・医療的ケア児など地域のスペシャルニーズへの対応の強化【18】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
摂食嚥下リハビリを中心とした専門的口腔健康管理や医療的ケア児の支援といった地域のスペシャルニーズに対応するための体制を強化するため、診療科を再編する。	地域のスペシャルニーズに対応するための診療科の再編	期初2年で体制を整える	あんしん科について、病院長補佐を中心に麻酔体制と診療体制の構築を行った。(R6) 北九州地域における医療的ケア児を含めた障害児・障害者に対する専門的な歯科医療提供体制の強化を図るため、北九州地域歯科医療提供体制検討協議会を設置した。(R7)
		期中2年で診療の実績を作る	
		期末2年で教育への展開を完了	

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(3) 経営状態の恒常的な把握・分析による適正な収入の確保【19】	令和7年度は、各診療科ごとの稼働目標をたて実行に移すことや医員等の若手の積極的な登用により、令和6年度と比較し、約1億円の増収を果たした。効果的な方策により、適正な収入の確保を果たすことができた。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 診療収入をタイムリーに把握・分析し、患者の満足度を向上させる。	患者の満足度の分析及び診療収入のタイムリーな把握・分析	期初1年で病院情報システムを構築し、病院全体で共有、次年度から自己収入の目標値を設定	病院収入をタイムリーに把握し・分析しそれを基に診療科ごとの収入目標を策定し収入増に結び付けた。
イ 附属病院が医育病院であることを鑑み、診療・診断機器の更新を見据えた適正な収入を確保する。	適正な収入の確保	歯学科及び口腔保健学科の教育を充実するために安定した患者数を確保し、電子カルテデータをもって収入の分析を行い、その収入想定額を科学的に検証し、毎年度適正な収入を確保する	12億5千万を病院全体の稼働目標とした。各診療科ごとの稼働目標を設定するとともに、医員の積極的な受け入れを行い、医員に関しても年間稼働額を設定し、適切な収入の確保に努めた。結果として、12億6千万の稼働実績を残した。

V 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

項目別の状況（中期計画項目）
1 自己点検・評価等による大学業務の改善 自己点検・評価及び大学機関別認証評価、歯学教育評価及び福岡県公立大学法人評価委員会による評価結果を反映させた、組織的な大学業務の改善を推進する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 自己点検・評価及び第三者評価結果を反映させた大学業務の継続的改善【20】	・毎年度、第4期中期計画、分野別認証評価及び機関別認証評価に基づく自己点検評価を実施し、その結果を内部質保障委員会で検証し、大学業務の継続的改善を図った。尚、検証結果に関しては、全教職員を対象とした全学説明会ならびに本学ホームページ上で公表を行い学内外に周知することとした。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
教学システム及び大学運営の自己点検・評価の実施結果及び第三者評価の評価結果を学内に周知するとともに、PDCAサイクルを意識した組織的かつ計画的な大学業務の改善を継続的に実施する。	教学システム及び大学運営の自己点検・評価の実施結果及び第三者評価の評価結果の学内周知と大学業務改善	毎年度実施	・第4期中期計画に基づく今年度の進捗状況は、概ね計画通りで良好であった。 ・歯学分野別認証評価の評価年度であったため、定められた評価項目に従い、自己点検評価を行い、報告書の作成、提出を歯学分野別認証評価を所掌する大学基準協会に対して行なった。 ・機関別認証評価は、第4期評価の内容が示されたが、今年度の評価項目を新たな認証評価の項目に適合させた上で、機関別認証評価に基づく自己点検評価を行った。

項目別の状況（中期計画項目）
2 情報公開・情報発信の推進 九州歯科大学憲章のもとに行う教育・研究及び歯科保健医療活動等の積極的な情報公開・情報発信を推進する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) ホームページをはじめとした様々な媒体を活用した国内外への情報公開・情報発信の推進【21】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア ホームページによる教育・研究及び歯科保健医療活動等の国内外への情報公開・情報発信を行う。	ホームページによる教育・研究及び歯科保健医療活動等の国内外への情報公開・情報発信	毎年度実施	教育・研究活動・歯科保健医療活動について、社会連携キャリアデザイン科目等で行っている学生のボランティア活動等を含めてHPで情報公開・発信を行った。令和7年度末に大学HPを刷新し、スマホへの対応など情報アクセスの利便性の向上を図った。
イ 本学の特色や学内の様々な活動情報を広く発信するため、広報誌を発行するとともに、配布先からの評価を収集し、広報誌をアップデートする。	広報誌の定期的な発行及び配布先からの評価収集	毎年度1回発行及び評価収集	・Platys特別号を発刊した（2025年4月）。 ・新入生を対象としたアンケート調査を実施し、過去5年分の結果を分析し公表した。 ・新入生のアンケート調査により、WEB広報活動の影響が高いことが判明したため、WEB広報として、大学の紹介動画に加えて歯学科、口腔保健学科それぞれの紹介動画を新たに作成し掲載した。

特記事項

【今年度実績】

・災害時における歯科医療提供体制への本学としての持続的な支援体制を構築するため、厚生労働省が公募していた災害時歯科保健医療提供体制整備事業に応募し、実施団体として選定されたことに伴い、福岡県歯科医師会と協定を締結すると共に、地域における災害時に本学が貢献するための体制の構築のため、本学附属病院内に災害支援室を次年度から設置するための準備を行った。